

60年にわたってグローバル人材を輩出し続ける

ICU 5つの取り組み

1 リベラルアーツ英語プログラム(ELA)の導入

さまざまなテーマを通じて少人数の学生が英語でディスカッションをすることにより、英語運用能力の向上とともに創造的、批判的、主体的に考える力が自然と身につく



2 情報発信能力(ライティング力)の強化

ELAにおけるResearch Writing(論文作成)のほか、英語で開講される専門科目には教員と協同で英文レポート作成を支援するチューターを配置。自らの専修分野にふさわしいアカデミック・ライティングの手法を身につける



3 単位取得をともなう海外留学

21ヵ国66大学と結んでいる交換留学協定のほか、6週間の海外英語研修(SEA)プログラム、カリフォルニア大学の夏期講座に学ぶUCサマーセッションズなど、学習計画に応じて選ぶことができる



4 大学環境のグローバル化

全学生約3,000人の国籍は40か国以上で、専任教員の3人にひとり外国人。キャンパス内に学生寮や教員住宅もあり、学びだけでなく生活の全体を通して自然な国際交流が育まれる



5 選べる31の専修分野

2年次の終わりに文系・理系31分野のなかからメジャー(専修分野)を選択。ひとつの分野を修める「メジャー」、ふたつの分野を修める「ダブルメジャー」、主専攻と副専攻を組み合わせる「メジャー・マイナー」を選べるので、多様な知識の統合力を養うことができる

国際基督教大学

「ほかに取り組んでいることはありますか。」
英語で「話す」だけでなく、「書く」能力にも重点をおいています。コミュニケーションを論理的に組み立て、簡潔に表現する力が必要です。書くことで、その能力が科目を履修するための準備ですが、同時にそこで論文執筆の作法や批判的思考などの基本的な訓練もなされます。

「グローバル人材を育成するにあたり、ICUが重視しているポイントは何ですか。」
幅広い視野と、柔軟な思考力をもった学生を育てることです。どれだけ語学力が高くて、さまざまな意見を受け入れ、自分でそれを咀嚼してアウトプットする能力がなければ世界で活躍できませんから。
本学では、入学時ではなく大学生としての基礎力をつけた2年次の終わりに分かれてから、自分の専修分野を文系・理系31のメジャーから選びます。ひとつの分野にこだわる必要はありません。たとえば、生物学と音楽を同時に専攻することも可能。多角的な視野で学ぶからこそ、視野狭窄におちいることなく専門知識を幅広く統合する力を養うことができるのです。

「どのような人材が社会で活躍できるのでしょうか。」
多様な価値観をもった人材ですね。世間では「即戦力」が重視されるからと、実学や資格取得に走る傾向がありますが、しかし、実際に企業の経営者とお会いしてみると、むしろ正反対で、成長している会社ほど「ものごとの本質に迫る力」「現状を疑う力」「企業理念を共有できる人」「夢をもつ人」がほしい、といえます。変化の激しい時代なので、どんなに専門知識を学んでも、すぐに役に立たなくなってしまうからです。

「グローバル人材を育成するにあたり、ICUが重視しているポイントは何ですか。」
幅広い視野と、柔軟な思考力をもった学生を育てることです。どれだけ語学力が高くて、さまざまな意見を受け入れ、自分でそれを咀嚼してアウトプットする能力がなければ世界で活躍できませんから。
本学では、入学時ではなく大学生としての基礎力をつけた2年次の終わりに分かれてから、自分の専修分野を文系・理系31のメジャーから選びます。ひとつの分野にこだわる必要はありません。たとえば、生物学と音楽を同時に専攻することも可能。多角的な視野で学ぶからこそ、視野狭窄におちいることなく専門知識を幅広く統合する力を養うことができるのです。

2012年度 文部科学省「グローバル人材育成推進事業」タイプA(全学推進型)に採択された大学

北海道大学	国際教養大学	同志社大学
東北大学	国際基督教大学	関西学院大学
千葉大学	中央大学	立命館アジア太平洋大学
お茶の水女子大学	早稲田大学	

●文部科学省「グローバル人材育成推進事業」とは
若い世代の「内向志向」を克服し、国際的な産業競争力の向上や国と国の絆の強化の基盤として、グローバルな舞台に積極的に挑戦し活躍できる人材の育成を図るため、大学教育のグローバル化のための体制整備を推進する取り組み

「グローバル人材を育成するための取り組みを教えてください。」
「英語運用能力の向上」を図るため、リベラルアーツ英語プログラム(ELA)を導入しています。
ELAは、4月入学生全員が履修する語学教育科目。授業はすべて英語で行われ、学生の能力段階にもよりますが、1年次の授業の8割を占めます。早期段階で、実践的な運用能力を身につけてもらうためです。
「ELAの特徴はなんですか。」
本学の全授業に共通しますが、少人数で履修するための準備ですが、同時にそこで論文執筆の作法や批判的思考などの基本的な訓練もなされます。

国際基督教大学 学務副学長 森本 あんり

1956年、神奈川県生まれ。国際基督教大学、東京神学大学大学院、米プリンストン神学大学院博士課程を修了。1991年、国際基督教大学にて牧師を務め、同大学人文科学科准教授、同教授を経て、2012年から現職。おもな著作に「アジア神学講義」「アメリカの理念の身体」(ともに創文社)「現代に語りかけるキリスト教」(日本基督教団出版局)などがある。



「多様な価値観をもった人材ですね。世間では「即戦力」が重視されるからと、実学や資格取得に走る傾向がありますが、しかし、実際に企業の経営者とお会いしてみると、むしろ正反対で、成長している会社ほど「ものごとの本質に迫る力」「現状を疑う力」「企業理念を共有できる人」「夢をもつ人」がほしい、といえます。変化の激しい時代なので、どんなに専門知識を学んでも、すぐに役に立たなくなってしまうからです。



60周年を迎えた日本初のリベラルアーツ・カレッジが一貫して取り組む教育とは 「日本の常識は世界の非常識」 世界に通じる卒業生を輩出する

※ 献学: ICUでは「建学」を「献学」と表記する。同校は人類社会の平和的發展に奉仕する人材の輩出を目的とし、国籍・人種・宗教・文化の違いを越えて開かれた大学として設立された。「世界平和に貢献した大学」という意味が込められている。